誰もが抱える悩みをパパッと解決！

福田貴一先生の福が来るアドバイス

小5になるまでに身につけさせたい学習スタイル

早稲田アカデミー
千葉ブロック統括責任者
福田　貴一

「中学入試までにはまだ時間がある」と思いがちな小学校4年生までの時期。確かに入試問題が解けるようになるのはまだ先のことでしょう。しかし、この時期に学習スタイルを身につけておかなければ、5年生からの伸びが全く違うのも事実です。

では、5年生になるまでにどんな学習スタイルを身につけさせればいいのか、考えてみましょう。

「勉強すること」に対する価値観を高める

野球をやっている子どもが強いチームと練習試合をして負けてしまったとき、何と声をかけますか？普通は、「何で負けたの？」とは言わずに、「次は頑張ろうね」と励ますのではないでしょうか。では、テストのときは何と言いますか？間違った問題について、「何で間違えたの？」と責めてしまっていませんか？

テストと野球は違うと思われるかもしれませんが、子どもにとってはどちらも「頑張った」なのです。子どもが努力したと思うのであれば、それが野球でもテストでも努力した事実をほめるようにしましょう。特に4年生まではたとえ点数が悪くても「頑張ったね」とほめてあげることが大切です。それを繰り返せば、子どものなかで「勉強すること」の価値観が高まり、「もっと勉強しよう」という"やる気"が生まれます。

「できる」という自信を持たせる秘訣

子どもたちの"やる気"は成功体験の積み重ねから生まれます。たとえば、テストを受けるたびに叱られるなどの辛い体験、失敗体験を続けると、当然ながら「テスト＝嫌いなもの」になります。反対にテストを受けるたびに喜びや楽しさを感じれば、「テスト＝好きなもの」になります。

とはいっても、いつもテストの点が良いとは限りません。ときには落ち込んでしまうほどの点数を取ることもあるでしょう。だからこそ、4年生くらいまではテストを受けた事実をほめるようにしましょう。「今日も頑張って受けたね。」そう声をかけるだけでも、子どもたちはテストを好きになっていくはずです。

また、低学年の間は、計算や漢字などの簡単なことでもどんどんほめましょう。「難しい問題が解けたときにほめるのでは？」と思われるかもしれませんが、低学年の子どもにとっては、ひとつの漢字が書けたこと、この2つはどちらも同じ「できた」でしかありません。難しい問題を必死に考え、その問題が解けたことを喜ぶのは6年生や中学生になってからです。簡単な問題でも解ければほめる、漢字がひとつでも書けるようになればほめる、このほめられたことの積み重ねが自信になり、"やる気"につながっていきます。

勉強に嫌なイメージを抱かせない

生まれたときから勉強が嫌いな子どもはいません。特に幼稚園や低学年の頃は新しいことを覚えるのが楽しくて、自分から進んで覚えようとしたはずです。苦手な子が多い漢字にしても、習い始めた頃は楽しんで書いていたのではないでしょうか。それがいつの間にか「覚えなければならない」や「覚えるのが大変だ」と思うようになり、最終的に「覚えるのが苦手」という嫌なイメージにまで発展するのです。

では、嫌なイメージを抱かせないためにはどうすればいいのでしょうか。そのためには保護者の方の"仕掛け"が必要です。ひとつは、問いかけをすることにより、「できないのは自分のせい」と自覚させることです。たとえば、漢字を10個覚える約束をしていたのに3個しか書けなかったとき、「何で3個なのかな？」と問いかけてください。その問いかけに「できなかった」と答えたならば「何でできなかったと思う？」とさらに問いかけます。この問いかけを続ければ、最終的には「ごめんなさい。次からはもっと頑張ります」と、自分のやり方に問題があったことに気づいてくれるはずです。

そして、もうひとつの"仕掛け"は「変化があれば必ずほめる」ことです。漢字を3個しか覚えられなかった子が4個覚えたらほめてください。このときに「まだ4個ね」と言ってはいけません。「4個も覚えられたね。次は5個だね」とほめるのです。さらに、テストで80点だった子が100点を取ったならば、「計算間違いが減ったのが良かったのね」と具体的な事例を出しながらほめてください。すると、「次も計算間違いしないようにしよう」といった"やる気"につながります。

毎日勉強する習慣を身につける

3、4年生になったら、きちんと学習計画表を作ることをお勧めします。これは、勉強させる習慣を身につけさせるためでもありますが、本当の目的はその先、成功体験の積み重ねにあります。たとえば、毎日勉強する時間や、やらなければならない内容が決まっていれば、その勉強を計画通りに終わらせることで「予定通りに勉強できた」という成功体験を得ることになります。当然ながら、その成功体験が積み重なれば、「今日も頑張ろう」という"やる気"になっていくのです。

では、どうすれば毎日勉強する習慣が身につくのでしょうか。そのポイントは「同じ」を徹底させることです。同じ時間に同じ内容（決まった内容）を同じ場所ですることが大切です。なお、場所については、4年生くらいまではリビングでもかまいません。というよりも、保護者の方の目が届く場所の方がいいでしょう。しかし、5年生になったら勉強する場所を決めてください。そして、できればその場所を「勉強しかしない場所」にしてください。どんなに立派な勉強部屋や机があっても、そこに漫画やゲームが置いてあれば、当然、勉強中に気が散ってしまいます。「ここに座ったら勉強しかやらない。」そんな場所を作ってほしいと思います。

子どもの闘争心に火をつける"仕掛け"

子どもは競争することが大好きです。親子でゲームをしていて、負けたくない一心で一生懸命に取り組んだことが今までにもあったはずです。そんな子どもたちの闘争心に火をつけるために、まずは保護者の方が子どもと一緒になって勉強し、そして、競争してみてください。計算のスピードや漢字の暗記でもかまいません。とにかく競争し、保護者の方が子どもに勝ってください。子どもは「お母さんやお父さんに勝てるはずがない…」と思いつつも、「次は勝ってやろう！」「次は負けたくない！」という気持ちになり、本気になって挑んできます。

そして、できるならば同級生でライバルができるような"仕掛け"をしてみてください。「●●くんには負けたくない」といった闘争心は、想像以上の"やる気"を引き出すはずです。

中学受験のときに後悔しないためにも学習スタイルを身につけましょう

4年生までのうちに勉強する習慣を身につけておけば、5年生になって高度な問題に触れたときに、思考力や考察力、問題発見能力、解決能力、読解力などの様々な応用力を生むことにつながります。

そのなかでも第一志望校合格のために絶対に身につけなければならないのが判断力です。言うまでもありませんが、中学入試では満点を取る必要はありません。しかし、他の受験生より点数が低ければ合格はできません。だからこそ、「解き方はわかったけれど、この問題を解くには10分かかる」と思った瞬間にその問題は捨て、確実に解ける問題で点数を稼ぐようにできるかどうかが鍵となります。

将来、そのような力を身につけるためにも、しっかりとした学習スタイルを5年生になるまでに確立させておきたいものです。

お便りをお待ちしております
みなさまのお悩みに福田先生が紙面上でお答えします。
下記のアドレスまでお寄せください。
メール：success12@shahyo.com
採用された方には、オリジナル福スタンプを差し上げます。